



第 2 章 景観形成の方向性

1 景観形成の基本的考え方

高崎らしさの現れた景観

～ 次の世代へ引き継ぐ ～



求心力ある中核都市としての都市デザイン



ひとまわり大きくなった高崎の第二の要・間屋町



市街地を取り囲む榛名山をはじめとする山並み



烏川や榛名湖などの清々しい水辺景観



市民がホッとする都市の中の自然



数ある古墳群と天平時代の国分寺跡



西上州一の城郭だった箕輪城を筆頭とする古城の跡



荘厳な榛名神社や地域を守る神社・寺院



蚕や繭、桑畑と共に生きた地域の記憶



古くから交通の要衝として栄えてきた高崎の歴史



高崎近郊に今も息づいている日本の原風景



生業や地縁と結びついた伝統的景観

暮らしの基調となる日常的景観

～日々の生活の風景を大切にする～



田園・集落景観

高崎ならではの美しい田園風景の創出



住宅地景観

住みよさを実感できる 緑と潤いある暮らしの場

人がつくる景観

～パートナーシップでまちづくり～



コミュニティがつくる景観

一番きれいにしたいのは 自分の町！



商業・業務地景観

にぎわいや活気、都市環境とのバランスがとれた街



工業地景観

市の産業と活力を支えるとともに景観を構成する工場群



もてなしの町の風景

景観・文化とホスピタリティ精神でつくる魅力ある都市

高崎らしさの現れた景観
次の世代へ引き継ぐ

暮らしの基調となる日常的景観
日々の生活の風景を大切に

人がつくる景観
パートナーシップでまちづくり

私たちの高崎市には、自然や歴史に紡がれてきた高崎独自の景観がたくさんあります。既に失われつつあるものもありますが、これら高崎らしさの現れた景観を私たちの宝として、次の世代へと着実に引き継いでいきたいものです。

また、住まいや学び、仕事、買い物など、日々の暮らしの基調となる日常的な景観も、欠くことのできない現代の原風景です。

そして、これらの景観を守り、育てていく主役は私たち一人ひとりです。市民と行政、行政と事業者、あるいは市民相互のパートナーシップが不可欠となってきます。

そこで、本章では、左の3つの視点から、景観形成の方向性を定め、次章において具体的に各地域の「景観形成の方針」を提示します。

風格とにぎわいの都心部

求心力ある中核都市としての 都市デザイン



都心部景観は、市全域を象徴する「まちの顔」

高崎駅を中心とした高崎都心部は、政治・経済・教育・文化などの総合的な都市機能が集積し、人・もの・情報などの活発な交流の場として、現在、本市のみならず群馬県の中心的役割を担っています。

上越・北陸の2本の新幹線と高崎線など、5本のJR在来線が集中する高崎駅は、本市及び群馬県の玄関口で、1日56,000人もの人が乗り降りし、駅周辺は近年一層、広域からの集客性が増しています。

この高崎都心部の景観のイメージを高めることは、「まちの顔」として本市全体の印象を高めるとともに、市全域の景観形成に対して先導的役割を果たすことになります。

城下町、軍都、商都・・・まちなかの変遷

本市は、1598年徳川四天王の一人井伊直政によって築城された高崎城とその城下町を母体として発展してきたまちで、江戸時代から中山道を中心としてにぎわってきました。

明治以降は、高崎城址三ノ丸堀の内側に歩兵第十五連隊が置かれ、高崎線の開通によって、駅前から城址へ向かう道は「凱旋通り」と呼ばれ、軍都として栄えた時期もありました。

第2次大戦後は、交通拠点性と広大な後背地を生かした物資の集散地として栄えた商都、そして地方オーケストラを持つ文化都市として発展してきました。



高崎の顔となっている高崎城址の乾櫓と東門（高松町）

県内唯一残る土塁とお堀に囲まれた高崎城址の景観

水を湛えたお堀と桜の古木が茂る土塁に囲まれた高崎城址公園は、市庁舎をはじめとして、高崎シティギャラリー、高崎総合医療センター、総合保健センター、広場などを擁する文化シビックゾーンとなっています。

中でも、当時の市民の多大な寄付が寄せられて建設された群馬音楽センター（昭和36年竣工）は、世界的に有名な建築家アントニン・レーモンドが設計にあたり、「文化遺産としてのモダニズム建築・ドコモモ20選（日本）」にも選ばれた本市のシンボリック建物です。レーモンドは設計にあたり、城址内を意識して景観への配慮を行ったと述べています。



桜の名所であるお堀端（高松町）

高崎城 400年の歴史を持つ「商都高崎」の玄関口・西口

高崎駅西口から中山道を挟んで、高崎城址のお堀までの間は、本市の代表的中心市街地です。西口から市役所へ向かうシンフォニーロードや慈光通り、東2条通りなどをはじめとして、主要道路では舗道の拡張や電線類地中化が進んでいます。20余年にわたる市街地再開発や区画整理などによる都市基盤づくりの成果が実を結び、美しく魅力的な道路景観とまちなみが「商都高崎」の商業エリアをつないでいます。

平成20年春開催の全国都市緑化ぐんまフェアでは、「花路花通り」をキャッチフレーズに、まちなか会場が好評を博しました。

ますます求心力を高め、変貌しつつある東口

一方、高崎駅東口周辺では、駅から関越自動車道スマートインターチェンジに伸びる東毛広域幹線道路の整備が進んでいます。また、駅前広場周辺整備によって、鉄道と高速バスとの交通結節点の機能がより高まることが期待されています。

今後は、今まで以上に群馬県の商業・業務ゾーンとして、観光のエントランス・拠点として、変貌を遂げることが予想されます。



若者でにぎわう高崎駅西口 慈光通り（八島町）



高速バスターミナルの新設により、鉄道網と道路網の利便性向上を目指す高崎駅東口周辺（栄町）

以上、本市が求心力ある中核都市になればなるほど、市全域を象徴する「まちの顔」として、都心部景観のデザインが問われます。そこで、風格とにぎわいの高崎都心部景観の形成を第一に目指します。

景観形成の方向性

- ・北関東・信越のゲートウェイとしてふさわしい 活気あふれる中にも風格のある都心部景観の形成
- ・本市の都市文化の積み重ねが感じられるまちづくり

次代の活力を担う副都心

ひとまわり大きくなった高崎の第二の要・問屋町

全国初の問屋団地をつくった高崎商人

本市は、田町、九蔵町など中山道沿いを中心に、市内各地に600余りの卸売業者がひしめき、関東甲信越を商圈とする物資の集散地として栄えてきました。

そして、昭和30年代後半、高崎商工会議所卸商業部会は自動車交通時代に対応するため、問屋団地を造成することを決断し、国道17号高崎前橋バイパス沿いに、全国第一号の卸商社街が整備されました。



高崎問屋町駅前へと続く道路（問屋町）

時代の変化に対応した企業活動とまちづくり

21世紀を迎え高崎問屋町にもIT化、経済のグローバル化など、新たな波が押し寄せる一方、JR高崎問屋町駅の開設や駅前広場、都市計画道路などの都市基盤の整備が進んできたのを契機に、地元で「問屋町まちづくり研究会」の活動が始まりました。（平成12年）

研究会では、まちづくりの基本方針を定めて、それに沿ったルールづくりを検討し、平成15年10月「問屋町まちづくり計画案」として都市計画提案されました。（平成16年地区計画決定）



問屋町中央公園から見た問屋街センター・ピエント高崎と展示場。西隣には高崎商工会議所も建つ、問屋町の中核エリア（問屋町）

よりグレードアップした副都心としての景観形成

現在では、卸の業態にとらわれず、商業・業務施設を誘導し、乱開発を防ぎ、地球環境や景観に配慮することによってよりグレードアップした副都心としてのまちづくりを目指しています。



環状線沿道に連なる商業・業務施設。市町村合併後は、新市域への玄関口としての役割も持ち、全市のモデルとなる景観形成が望まれる。（問屋町）



景観形成の方向性

- ・次代の活力を担う先導的な商業・業務地景観の形成
- ・商業空間と住環境が複合した都心居住としての先導的な景観形成

山まの見える都市ち

市街地を取り囲む 榛名山をはじめとする山並み

山が見えると なぜか安心する高崎市民

本市は、関東平野を形成する平野部から丘陵地、そして山岳地に至るまで変化に富んだ自然地形を誇っています。

ふと目を上げたときに、榛名山、赤城山、妙義山の上毛三山や浅間山などの山々が見えると、自分のいる位置がわかり、やすらぎを感じるのが多くの高崎市民の習性です。

平成18年度に実施した「景観に関する市民アンケート調査」においても、とりわけ評価が高かったのが、上毛三山をはじめとする山々への眺望景観でした。

山への眺望、山からの眺望

烏川や温井川などの河川敷や橋上、三ツ寺公園などの大規模公園は、周辺の山並みが見渡せる良好な眺望点です。

逆に、丘陵地から市街地へ向かう道路上などにおいては、平野部の市街地を一望できるパノラマ景観を楽しめる場所が箕郷地域北部をはじめとして数多くあり、夜景スポットも豊富です。

さらに、山の頂や峠などから見える雄大な山並みや雲海の中の集落など、山岳地ならではの眺望景観も合併後の本市の大きな魅力の一つといえます。

本市でも、電波塔や丘陵部の開発など、眺望を阻害する問題が増えていますが、四方の山々への眺望景観は、貴重な財産として、できるだけ将来の高崎市民へと受け継いでいきたいものです。



高崎市役所より榛名山を望む。榛名の恵みによって育まれてきた高崎新市域（高松町）



三ツ寺公園での気持ちよい休日の背景を彩る榛名山（三ツ寺町）



温井川べりから虚空蔵橋越しに見える雪をかぶった浅間山（新町）

景観形成の方向性

- 山間部や丘陵部の自然環境や、山並みへの眺望の保全
- 代表的な眺望点の設定

清流と湖畔

烏川や 榛名湖などの 清々しい水辺景観

高崎市を縦断しながら、潤いを与えてくれる烏川

烏川は、鼻曲山に水源を持ち、上流部の倉渚から下流部の新町に至る過程で、滝や溪谷、溪流、広々とした河川敷など、様々に表情を変えていく本市を代表する河川です。

榛名山麓のあちらこちらから発する榛名白川、車川、染谷川、井野川などの中小河川のほとんどは烏川へと合流します。また、吉井町を東西に流れる鐘川についても、烏川へと合流します。

榛名の恵みは表に見える山谷だけでなく、地域を流れる水の恵みとなって本市の農業や暮らしを支えてきました。

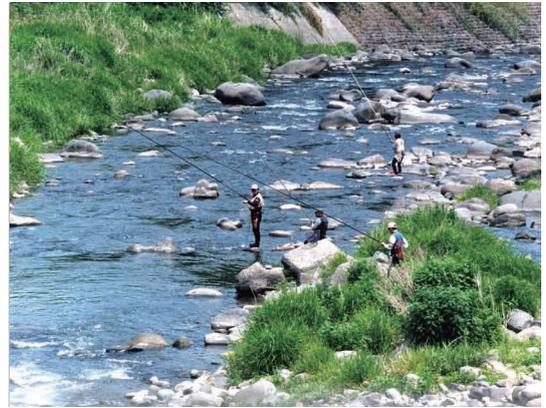
さらに、下流では、サイクリングロードや運動場、緑地や公園のあるレクリエーションの場として、橋上からの眺望点として、また、多様な動植物の生息の場として、地域に潤いを与えています。

印象的な湖畔の水辺景観

榛名湖や箕郷の鳴沢湖など、湖畔の景観形成も大きな柱です。

榛名湖周辺は、竹久夢二も愛し、ここに榛名山美術研究所を作ろうと計画していましたが、志半ばにして実現はしませんでした。湖畔の宿記念公園には夢二のアトリエが復元されています。

さらに、榛名湖畔は、高崎市民にとっては、中学時代に榛名高原学校でカッターを漕ぎ、生まれて初めてキャンプファイヤーを囲んだ思い出の地でもあります。子供たちの「思い出を作る」景観の責任は重大です。



烏川の上流、水沼付近で魚釣りを楽しむ人々（倉渚町水沼）



倉賀野八幡神社から根小屋方面を望むと蛇行した烏川が見える。手前に見える花々は地元の人々のボランティア活動による。（倉賀野町）



楽しい夏の思い出を子供たちに残したい榛名湖畔の風景（榛名湖町）

景観形成の方向性

- ・親水性や生態系、周辺環境に配慮した河川景観の形成
- ・自然環境の保全と、より魅力的で親しみやすい湖畔景観の創出
- ・烏川、榛名湖を景観重要公共施設として指定

観音山丘陵

市民がホッとする 都市の中の自然

市民の心の原風景であり、ランドマーク

高崎地域の中心市街地に隣接する緑豊かな観音山丘陵は、南は山名城址から清水寺、高崎白衣大観音、鼻高の少林山へと連なり、フェアリーランドの遊園地で遊んだ思い出とともに、高崎市民にとって原風景ともいえる場所です。

加えて、本市を訪れる人々にとっても、本市へと帰ってくる人々にとっても、新幹線が高崎駅に近づくと白衣大観音を中心とした観音山丘陵が南西方向に見えることで、高崎に着いたことを実感する、本市の重要なランドマークとなっています。

平成18年度に実施した「景観に関する市民アンケート調査」では、「高崎観音の見える観音山丘陵一帯の景観」が非常に高く評価されています。

野鳥や昆虫、動植物の貴重な生態系の保全

観音山丘陵は、90種類もの野鳥の宝庫として知られ、野鳥の森や染料植物園などでは探鳥活動や昆虫採集、植物散策が楽しめます。都市に隣接する丘陵の景観美は、そこでの生態系によって支えられ、維持されているのです。

乱開発や景観阻害から守るために

丘陵一帯は、現在210haが風致地区に指定され、一部は都市公園として整備されています。しかし、遠景から見た緑の保全や、羽衣線では観音様に因んで「羽衣坂」と名付けた先人の思いに恥じないよう広告物の色彩に配慮するなど、今後の景観形成上、取り組むべき課題も指摘されています。

市民みんなの心の中に生きる、それぞれの観音山丘陵が高崎らしい景観の一つとして大切にされなくてはなりません。



観音様への緑あふれる参道（石原町）



国道18号豊岡方面から見た観音山丘陵（下豊岡町）



観音山丘陵からの市街地や山並みへの見晴らしも良好で、古くから高崎地域の眺望点として親しまれてきた。（石原町）

景観形成の方向性

- ・観音山丘陵の緑と調和した住宅地景観、沿道景観の形成
- ・丘陵から望む市街地への眺望の保全
- ・観音山丘陵の自然や生態系の保全

古代東国の面影

数ある古墳群と 天平時代の国分寺跡

群馬地域は、古代遺跡の宝庫

今から約 1500 年前に造られた全長 190 m の八幡塚古墳をはじめ、周辺の二子山古墳、薬師塚古墳とともに「保渡田古墳群」と呼ばれている地域は、5 世紀の後半、榛名山東南麓一帯を治めていた有力豪族たちの墓所で、国指定史跡となっています。

この一帯は、現在「^{かみつけの}上毛野はにわの里公園」として整備が進み、博物館や文学館とともに、生きた文化を学べる交流のエリアとして地域住民に親しまれています。

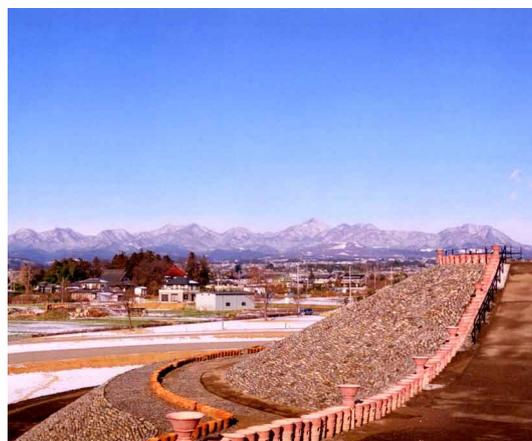
また、古墳時代の豪族居館跡、三ツ寺遺跡や^{きたやつ}北谷遺跡、天平時代の^{こうずけこくぶんじ}上野国分寺跡などもあり、本地域は、上毛三山の眺めがよく、肥沃な土地の優位性から“選ばれた地域”であったと言われています。

史跡の素晴らしさを際立たせる周辺景観の重要性

そのほかにも、稲作社会の原風景を残す国指定史跡日高遺跡、古墳時代の国指定史跡観音塚古墳や観音山古墳、飛鳥・奈良時代の国指定特別史跡^{やまのうえひ}山上碑及び古墳、多胡碑や金井沢碑の上野三碑など、古代東国の都としての面影が数多く残っています。

けれども、これら素晴らしい史跡・文化財は、子孫である私たち市民に価値を認められたり、それらを取り囲む自然や集落の背景、ふさわしい景観に収まることによって、よりその輝きを増すものです。

高崎市民が全国に誇れる歴史的景観資源を大切に守り、その優位性を生かした景観まちづくりが望まれています。



雪の榛名山を望む八幡塚古墳。はにわの里づくり事業で、手造り埴輪 6,000 個を目指している。(保渡田町)



国府地区にある国指定史跡「上野国分寺跡」は、奈良時代 756 年に聖武天皇により、建立された。基壇や築垣の一部が復元されている。(引間町)



国特別史跡多胡碑が納められている覆堂 (吉井町池)

景観形成の方向性

- ・古墳や遺跡を守るとともに、その周辺の落ち着いた田園・集落景観の保全
- ・市民による景観資源の掘り起こしや学習の推進

戦国の城址

西上州一の城郭だった 箕輪城を筆頭とする古城の跡

戦国時代の名城 箕輪城

今から約 500 年前の戦国の世、越後の長尾氏とともに関東管領上杉氏を支えていた長野氏により箕輪城が築造されました(1504～21年)。1566年、武田信玄の猛攻撃の前に落城した悲劇は今に伝えられています。やがて1590年、徳川家康の命令により、徳川四天王の一人、井伊直政が箕輪城に入城します。時の石高12万石は家康の家臣中最大石高だったということですから、いかに箕輪城下が重視され、栄えていたかがわかります。

箕輪城下とともに 町名・町民まで高崎城下へ大移動

1598年、井伊直政は箕輪城を廃し、南の和田城を改築して移り、和田を高崎と改めましたが、この時、箕輪城下に住んでいた職人や町衆も一緒に高崎に移り、田町、鍛冶町、鞆町といった町名まで移されたということです。

その後、箕輪の町は寂しくなりますが、反面、約19haという広大な土地に、貴重な戦国の世の景観を後世の子孫に残すこととなりました。

中世から現代までが同居する 高崎城址

高崎城址は、駅近くの都心部に、水を湛えたお堀と桜の古木の茂る県内唯一の土塁、乾櫓、東門が残り、和田の時代の中世から現代までが同居する、風格あるシビックゾーン景観を形成しています。

また、高崎南部には、山名城址や根小屋城跡が残り、「石碑の道」を歩くことで、はるか昔、戦国武将が見た風景を追体験することができます。



自然の丘陵を巧みに造成した深い堀切と、土橋。本丸や御前曲輪、馬出し、虎口・土塁・石垣・門跡などの遺構が良好に保存されている箕輪城跡(箕郷町東明屋)



箕輪城跡東側の搦手口付近には、伝統的の家屋が多い。(箕郷町東明屋)



高崎城址公園は、お堀に囲まれた内側に文化・シビックゾーンを擁す。(高松町)



景観形成の方向性

- ・箕輪城跡、高崎城址などの保全と城下町の歴史を生かした景観まちづくり

幽玄の杜

荘厳な榛名神社や 地域を守る神社・寺院

はじめて訪れた人や大人になってしばらくぶりに訪れた市民は皆一様に驚きます。「こんなすごい神社は他にはない」と。

深い谷沿いの参道、巨岩・奇岩に囲まれた門・本殿

榛名神社は、1400年前に創建されたといわれる由緒ある神社です。明治になるまで神仏習合の霊地で、中世には勝軍地蔵が有名となり、武田信玄も戦勝祈願に訪れたという謂れをもつ矢立杉(国指定天然記念物)も参道の途中に立っています。

周囲を奇岩と杉の大木に囲まれた幽玄・神秘的な雰囲気の中に建つ本殿、双龍門、随神門などは、彫刻もすばらしく、中心となる6つの建物が国の重要文化財に指定され(平成17年12月)、全国に誇れる景観を有しています。

自然の神秘と 素朴な信仰心のよりどころ

^{すないご}烏子稻荷神社や^{すさのお}進雄神社など、市内各地の寺社もそれぞれ大木の樹林や鎮守の森を背負い、祭事等で人々が集まる地域のよりどころとして特別な役割を持ってきました。

榛名神社に代表される、自然の神秘と人間の素朴な信仰心の接点が「幽玄の杜の風景」であり、たとえ時代が変わっても大切に残したい景観の一つと考えます。

また、幽玄の杜へのアプローチとして、門前町の活性化と合わせた景観まちづくりが望まれています。



随神門をくぐると夏でもひんやりとした榛名神社参道。下の榛名川から涼しい風が吹き上げてくる。(榛名山町)



神社とその門前。社家町の活性化のための「幽玄の杜音楽会」は、昼・夜のコンサートと門前そばがセット。(榛名山町)



江戸期、関東から東北まで村々に「榛名講」という信者組織が作られ、榛名詣での人々で門前の宿坊は繁盛、最高で90軒の宿坊があった。(榛名山町)

● 景観形成の方向性

- ・ 榛名神社をはじめとする社寺周辺の自然環境の保全
- ・ 榛名神社における全国的な観光地を目指した景観まちづくり

養蚕の記憶

蚕や繭、桑畑と共に生きた地域の記憶

“機（はた）の音、製糸（し）の煙、桑（くわ）の海”

群馬県は、養蚕・製糸・織物などの生糸産業を通して、日本の近代化に多大な貢献を果たしました。文人徳富蘆花は、「機（はた）の音、製糸（し）の煙、桑（くわ）の海・・・」と上州の印象を詠っています。

収繭量は今なお全国一を誇り、国内で現在二カ所となった製糸工場の一つが安中市で稼働を続けています。

高崎市でも昭和40年代頃までは、市内全域で、養蚕農家と桑畑が見られ、都市部では川沿いに染工場も多くありました。

失われつつあるものの、心に残る原風景

近年、養蚕は衰退し、桑畑は果樹園や畑地に変わり、染工場はほとんど目にすることはできなくなりました。

しかし、養蚕用の換気屋、採光用の櫓や大きな開口部のある住宅や土蔵、屋敷林など、養蚕地域特有の景観は、まだまだ市内全域に見られます。また、「柏木沢の蚕影碑」や金古町常仙寺境内の「絹市場の焼死者供養地蔵立像」など、関連史跡も歴史を物語ります。

さらに、わが国の殖産産業をリードした明治10年開設の旧新町屑糸紡績所は、時代の波を経て今も残り、産業遺産として貴重なものになっています。

養蚕にまつわる地域の記憶を大切にしたい

群馬地域には、県立日本絹の里がありますが、そのほかに「養蚕」や「製糸」、「染」という、かつて本市の重要な産業だったものの「まちの記憶」は、目に見える形で伝えていくべきものと考えます。



矢原宿の三階建て養蚕農家住宅（箕郷町矢原）



屋敷林を背景とした養蚕農家住宅（引間町）



旧新町屑糸紡績所のレンガ糸庫（新町）



景観形成の方向性

- ・養蚕にまつわる様々な景観資源（養蚕農家住宅、土蔵、門、畑や水路 など）の保全・活用

街道と宿

古くから交通の要衝として栄えてきた高崎の歴史

古の鎌倉街道の時代から交通の要衝だった高崎市

今、全国で、「旧街道を歩きたい」、「昔の宿場を辿ってみたい」というシニア世代が増えています。本市も旧街道と宿場町の宝庫です。

古の鎌倉街道からはじまって、江戸の五街道の一つである中山道を基線として、倉賀野の閻魔堂から日光東照宮へ向かう日光例幣使道、本町から越後へ向かう三国街道、豊岡から北西へ向かう信州街道など、上信国境を越えていくつもの重要な道筋が集中していました。ほかにも草津道や伊香保道などがあり、土地への愛着が生み出した様々な道の名称の背景には、歴史の重みがあります。



鎌倉街道をしのぶ武者行列（宮元町）

歴史の連続性を感じる 旧街道沿いのまちなみ

旧街道には、一里塚などの道標や道祖神、庚申塔などの石碑が点在し、特に宿場町では、歴史的風情を残す建築物がまとまって残っています。

中山道の高崎宿、倉賀野宿（高崎）、新町宿（新町）、信州街道の三ノ倉宿（倉渚）、室田宿（榛名）、神山宿（榛名）、三国街道の金古宿（群馬）が代表的な宿場町です。



中山道本町通り店舗の裏に連なる蔵（本町）

都市文化の蓄積で、風格ある都市づくり

街道は、現在も多くの人々が利用する往来の盛んな道であり、歴史的建造物の更新も進んでいますが、将来を見据えた都市文化の蓄積のためには、豊かな歴史が目に見えることが必要です。

昔の人々が通った道、そこから見た風景を少しでも将来の高崎市民に景観資産として生かしていきたいものです。



神山宿の面影を残す建物（上里見町）



景観形成の方向性

- ・旧街道沿道の伝統的まちなみや歴史文化資源の保全とそれらを核とした景観まちづくり

美しい農村

高崎近郊に 今も息づいている 日本の原風景

なにかしら懐かしく、心のふるさとも感じる風景

高崎市街地から車で約40分、国道406号のトンネルをくぐり、倉渕へぬけると、本市の中でもとりわけ美しい農村風景が広がっています。道路の西側に広がる田園の中に、小さな赤いお堂がポツンと立っている風景は、何度通っても、なにかしら心のふるさとも感じさせてくれます。

倉渕支所手前の水沼橋の上からは、江戸末期の勘定奉行小栗上野介が最期を遂げた場所の慰霊碑と旗が見え、山と田畑の美しさに心を癒され、清々しい烏川の清流を望み、赤い屋根の蓮華院がアイストップとなります。



国道406号から見える赤いお堂のある風景（倉渕町三ノ倉）

都心部から1時間弱の地点に残る 日本の原風景

信州街道沿いの三ノ倉や権田には歴史的風情を残した集落が残っています。烏川から採った玉石垣の上に、地元の良質な木材を使用している家屋が多く、100年経った今でもしっかりと建っているものもあります。

また、箕郷や榛名の山間部にも倉渕と同じく谷津田や棚田、茅葺き民家が残りの、のどかな農村風景が健在です。

高崎の都心部から1時間弱の地点に、このような日本の原風景ともいえるエリアが残っていることは、合併した本市の新たな景観的至宝とも言えるでしょう。



独特の「はんでえ」に稲を掛けて天日干しをしている穫り入れ時の権田丘陵地（倉渕町権田）

当たり前すぎて、希少価値に気づかない美しさ

けれども、灯台下暗しと言いますが、地元では当たり前すぎて、その美しさや貴重さに気づかない人が多いようです。今後急速に消えていってしまう恐れがあるだけに、きちんと位置づけておきたい景観です。



下善地の榛名型養蚕農家住宅（箕郷町善地）

景観形成の方向性

- ・自然環境と調和した伝統的な農村風景の保全

民俗と祭り

生業や地縁と結びついた伝統的景観

風土と結びついた少林山だるま市

今から200年程前、天明のききんの後、農民救済のため、当時の少林山達磨寺和尚が、達磨大師の図を手本に木型を作り、農家の副業に張り子だるまを作らせ、七草大祭に売らせたのが「縁起だるまの少林山」の起源です。冬場は空っ風の吹く上州の乾燥した気候が、このだるま作りに適し、農閑期の副業として年々盛んになり、正月のだるま市の一晚は、近在をはじめ関東一円から寒風の中、願掛けだるまを求めて数十万人が集まる歳時記となっています。



少林山だるま市 (鼻高町)

祭りの準備、世代間交流、地域のつながり

高崎まつりをはじめとして各地域で行われる夏祭りは、各町内の神輿や山車巡行がメインとなりますが、祭りに向けて、夜遅くまで笛や太鼓を練習する準備期間の雰囲気もまた、子どもたちにとっては貴重な夏の思い出です。

また、小正月のどんどん焼きは、一年間道祖神についた災いを払い、無病息災を願う道祖神祭りですが、地域の習俗を世代間で引継ぎ、町内の人たちと協働作業する情景もまた一つの景観です。



倉賀野神社宵祭り (倉賀野町)

祭りの映える舞台としての伝統的景観

さらに、各地に古くから受け継がれてきた民俗芸能や神社仏閣での祭事などがより映えるためには、その舞台となる社寺などの伝統的建造物や自然の背景が欠かせません。



八幡八幡宮の獅子舞 (八幡町)



景観形成の方向性

- ・地域の歴史的な伝統行事の保全、民俗行事・祭礼の次世代への継承
- ・伝統行事などの背景となる寺社やまちなみ・樹木などの保全

田園・集落景観

高崎ならではの美しい田園風景の創出

暮らしを支え、生活に潤いを与えてくれる農地

農地は、暮らしを支える農業生産の場であるとともに、早春の梅林、春の田植え、麦秋の実り、真夏の青々とした水田、秋の黄金色の稲穂と穫り入れ時の天日干しなど、地形に応じた四季折々の変化のある景観が人々の生活に潤いをもたらす貴重な存在です。

農林業の担い手確保・生活環境の向上

近年、農家の後継者不足や農産物の価格低迷などにより、一部の田畑や植林地の荒廃、農家住宅の空家化や人口減少などが進んでおり、景観を守る観点からも、農林業の担い手確保や農林業振興、集落の生活環境の向上を図ることが求められています。

周辺の田園風景や自然環境と建築物との調和

高崎地域外縁部の幹線道路沿いにも、榛名山などの山並みを背景とした良好な田園景観が残っています。主要幹線道路沿いは、来訪者の本市に対する印象を左右しますので、建物や広告などは周辺環境に配慮して建築することが必要です。果樹などの直売所も景観に配慮して観光客へアピールすることが望まれます。

生活と密着した伝統的な農村景観を守り、育む

高崎ならではの美しい田園・集落景観を守り、育むことは、将来の子孫に向けての市民共通の遺産となります。

そのためには、樹林地や農地、河川、水路の適切な維持管理や、屋敷林や伝統的家屋、土蔵、生垣、石垣などの保全に取り組むとともに、野立て看板や電波塔の設置方法に配慮することも必要です。



棚田での秋の収穫の頃（箕郷町善地）



石垣のある緑豊かな集落（倉渕町三ノ倉）



手入れの行き届いた農地（中室田町）

景観形成の方向性

- ・背景となる山並みや自然風景との調和した建築物、工作物、屋外広告物 など
- ・地域の歴史を語る伝統的建造物や生垣、石垣などの保全
- ・農地や水路の適切な維持による田園景観の保全

住宅地景観

住みよさを実感できる 緑と潤いある暮らしの場

良好な住環境の保全

郊外や丘陵部に計画的に整備された中居団地や城山団地などの住宅団地では、整然とした街路や植樹帯、公園、生垣など、緑豊かで落ち着いた景観が形成されています。その維持に努めるとともに、いっそう質の高い住宅地景観を創出していくことが求められています。

既成市街地エリアのまちなみ形成

城下町や宿場町を母体として形成された既成市街地の住宅地では、低層戸建て住宅やアパート、マンションが混在しており、住環境の改善やまちなみ形成のためには、一定のルールを設けることが必要です。

自然環境と調和した住宅地開発

現在、箕郷・群馬地域の丘陵部の斜面や市街地外縁部におけるスプロール状の宅地開発とそれに伴う土地区画分譲及び集合住宅建設が問題となっています。

将来にわたって「住みやすさを実感できる高崎市」でありつづけるためには、田園・自然環境と調和した開発のルールを設けるとともに、建築物の形態意匠や色彩、敷地内の緑化など、周辺の景観に配慮する工夫が必要です。

快適で落ち着いたある住宅地を目指して

個々の住宅や集合住宅は、たとえ規模は小さくともまちなみを形成する重要な要素です。パブリックスペースとの境界部は、町の景観の一部になっていることを、すべての市民の共通認識としたいものです。



昔ながらの水路のある緑豊かな住宅地（下大島町）



郊外部の新興住宅地（棟高町）



住居系用途地域に新築された形態意匠に工夫を凝らした集合住宅（八千代町）



景観形成の方向性

- ・緑豊かで潤いのある落ち着いた住宅地景観の形成（特に、宅地開発における敷地内の緑化）
- ・地域特性や眺望への配慮、周辺の田園・自然環境と調和した住宅地景観の形成
- ・地域に残る歴史的建造物に配慮したまちなみの形成
- ・都市の中の自然を体感できる場として貴重な群馬の森などの公園環境の保全

商業・業務地景観

にぎわいや活気、都市環境とのバランスがとれた街

風格とにぎわいの商業・業務地づくり

中心市街地における商業・業務活動の活性化やにぎわいの創出のためには、明るい色彩の使用やある程度の広告物の掲出は欠かせないものです。

しかしながら本市は、「風格とにぎわいの都心部」景観の形成を目指していますので、通りやまちなみ全体としての調和や雰囲気作りに配慮し、訪れる人により心地よい空間を提供することで商都の繁栄を図ります。



高崎駅前慈光通り（八島町）

中心市街地活性化と景観施策との連携の必要性

商店街の景観形成は営業活動と深く関わっています。中心市街地活性化施策と連携し、景観面の向上を進めながら商業振興を図っていく必要があります。

各地域の核となる、身近で親しみやすい商店街づくり

各地域の暮らしを支えてきた支所周辺の商店街では、店舗の老朽化や空き店舗の増加などの問題があります。

地域の中心として、また高齢住民の利便性維持のため、商店街の存続と活性化は非常に大切であり、地元ならではの景観まちづくりの取り組みが求められます。



イベント開催とも運動してにぎわう南銀座通り（松物町）

幹線道路沿いの景観形成は最重要課題

自動車での移動の多い本市において、国道17号、環状線など幹線道路沿いの郊外型店舗の形態意匠・色彩は、本市景観の最重要課題の一つです。

特に大規模の店舗は、「目立たないと困る」とか、「全国統一のコーポレートカラーだから変更できない」という考え方ではなく、公道上から多くの人が目にするまちなみ景観を自分が形作っているのだという責任感に基づいて、先導的役割を担うことが求められています。



接道部を緑化したり、壁面のテナント看板の大きさを統一して景観に配慮した大規模店舗（棟高町）

景観形成の方向性

- ・中心市街地活性化と連携した、にぎわいと品格のある商業地景観づくり
- ・各地域の商業振興と連携した、身近で親しみやすい商店街づくり
- ・周辺環境と調和した、幹線道路沿道の商業・業務地景観の形成

工業地景観

市の産業と活力を支えるとともに 景観を構成する工場群

いち早く工業団地の造成を開始した高崎市

本市は、明治10年の旧新町屑糸紡績所の創業をはじめとして、古くから製糸所や製粉所、製紙工場などの地場産業を基盤として製造業が発達してきた県内有数の工業都市です。

高度成長期には、いち早く産業の振興と環境の調和を考えて周辺部に多くの工業団地が造成されてきました。現在、大八木工業団地、八幡工業団地、倉賀野工業団地をはじめとした24の工業団地があり、そのほか高崎IC周辺や菅谷町周辺、新町産業道路沿いなどにも工場が集積しています。



植栽のある大規模な工業団地（八幡原町）

緩衝緑地や公共空地の確保

工業団地では、計画的に道路や緑地が配置され、概ね整然とした景観が形成されていますが、一部に住宅地などと混在している工業地もあります。

工場は、他のものに比べて大規模な建造物が多いので、圧迫感を感じさせるなど、町の印象や景観に大きな影響を及ぼします。そこで、緩衝緑地や公共空地の確保による周辺環境への配慮が必要です。

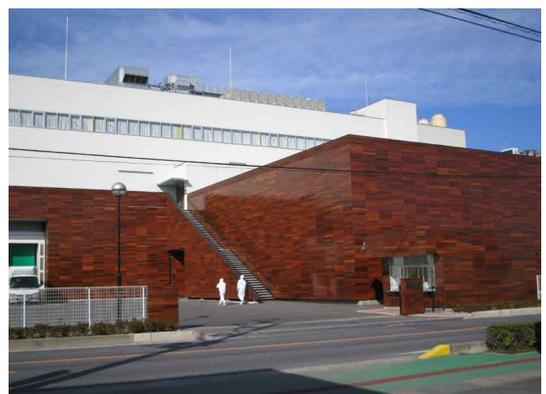


明るい低彩度色を基調とし、接道部を緑化して雰囲気をやわらげた工場（宮原町）

壁面の色彩や素材感に配慮

壁面が長大に続く巨大建造物になる場合は、雰囲気を和らげるために、壁面の色彩配分に配慮したり、低層部に素材感のある材料を使うこともひとつの方策です。

右写真の食品工場は、高層部は圧迫感のない白色、低層部は木目調の外壁とするなど景観的な工夫を凝らしており、周辺の住環境に配慮した例です。



木目調の外壁をあしらった工場（新町）

景観形成の方向性

- ・自然環境や住環境に配慮した緑豊かで安全・快適な工業地景観の形成
- ・幹線道路からの見え方に配慮した形態意匠や接道部の緑化
- ・暮らしを支えてきた産業遺産としての工場などの保全活用の推進

コミュニティがつくる景観

一番きれいにしたいのは 自分の町！

家の周りをきれいにしておくという作法～景観の原点

何気ない道路際や敷地際、人々が散歩する道や川の端にきれいに手入れされた草花を見ることがあります。また、生垣や樹木が連なる緑豊かな戸建て住宅地のまちなみやかしぐねのある昔ながらの農家住宅の家並み、手入れの行き届いた水路など、気持ちの良い人々の営みが現れた景観が本市の各地区で見られます。

美しいまちなみに出会うと、「この人は自分の町を大切にしているのだろうな。この町の間人間関係がいいのだろうな。」という想像が働きます。たとえ公道上でも自分の家の回りは庭のようにきれいにしておく、という作法はたしかに40年前にはどこの町にも存在し、子どもたちは家の手伝いをしながら自然と学んだものです。

地域コミュニティの充実が現われる美しい町並み

地域や人に愛着がないとなかなか自分の家の回りや周辺環境をより良くしようとは思えないものです。右写真の城山住宅団地は、地域のまとまりが良く、子ども会活動なども活発で、地域コミュニティの充実が地域の良好な景観づくりにつながっている代表例です。

世の中の動きの変化が激しい昨今、防犯や居住環境のよい地域社会は、そのまま安心安全なまちづくりにつながり、住まう町の価値を向上させてくれます。

自分の住む普通の町の景観をどうしていくか

特別な場所ではなく、自分が住む普通の町の景観まちづくりが一番大切で、また難しいのかもしれません。私たち市民が考え、主体的に行動しなくてはいけない部分です。



手入れの行き届いた道路際に温かい人間性を感じる。
(倉測町岩氷)



20年以上前に造成された城山住宅団地は、代替わりしても生垣や公園はますます美しく。(城山町)



昔ながらの路地をきれいに飾り、隣近所で雰囲気づくりをしている街中の夕刻(柳川町)

景観形成の方向性

- ・地域への愛着・誇りを具現化する景観の形成
- ・地域活動と景観まちづくりとの連携・支援

もてなしの町の風景

景観・文化とホスピタリティ精神でつくる 魅力ある都市

文化・シビックゾーンとまちなかとの回遊性

本市は、旧市庁舎を平成11年に新庁舎へ移転した際、跡地の使い道は将来の高崎市民に委ねることとし、空地のまま「もてなし広場」と名づけました。ここでは、毎月第4日曜開催の「ようこそ高崎人情市」、夏の「高崎まつり」、秋の「たかさき雷舞」など、1年中さまざまなイベントが催され、市内外から多くの人が訪れます。

また、城址公園内の文化・シビックゾーンが、中心商業ゾーンと、互いに回遊性を持ち、相乗効果で発展してきたのも本市の特徴です。全国的に有名な高崎映画祭、高崎音楽祭もこうした商都の市民文化の土壌で育てられました。

「この町に行ってみたい、この町を歩いてみたい」

来訪者にこの町に行ってみたいと思わせるためには、魅力的な資源が不可欠です。さらにその魅力的な資源を磨いたり、効果的に外へ伝えることも非常に大事です。

また、何がしかの接点を持つと、その町への愛着や関心は不思議とふくらむものです。例えば、中学生が案内役となる倉渚地域の道祖神の里めぐりは、全国からリピーターが訪れています。

景観と人でもてなす 魅力都市 —— 高崎

自分の町の良さを理解し、魅力的によその人に伝えることは「もてなしの町」の市民の役目です。その過程では問題点も発見、改善しつつ、より良い景観形成を目指していきます。



もてなし広場に勢ぞろいした山車の向こうに市庁舎が見える。(高松町)



道祖神の里めぐり(倉渚町三ノ倉)



榛名神社の見所を案内する観光ガイドボランティア(榛名山町)

● 景観形成の方向性

- ・景観を五感で楽しめる場所の創出
- ・市民による主体的な景観まちづくりへの支援